

平成28年第9回（臨時）高砂市教育委員会 会議録（要旨）

日時

平成28年5月19日午後3時50分

場所

高砂市役所本庁舎2階会議室1

出席委員

藤井委員長、衣笠委員、山名委員、吉田委員、圓尾教育長

出席事務局職員

大西教育部長、木村教育推進室長、瀧野学校教育室長、福原福祉部子育て支援室長、
駒井学校教育室学校教育課長、北野学校教育室学務課長、
藤田福祉部子育て支援室主幹、川西福祉部子育て支援室副課長

本日の会議に付した事件

協議事項

- 1 平成28年度第1回高砂市総合教育会議について
- 2 平成28年高砂市議会第1回臨時会提出議案に係る意見の聴取について
- 3 平成28年度の教育課程に関する意見聴取について

議 事 協議事項 1 平成28年度第 1 回高砂市総合教育会議について

- 事務局 (協議事項 1 : 高砂市小中一貫教育の取組について説明)
- 委員長 各ブロックごとの推進計画が検証するとなっているが、現実にはできているか。
- 事務局 去年 1 年間ずっと推進会議で準備会議という形で進めて、完成にまだ一步、もう少しのところもあるが、今年度、1 年かけて進めていくという形で取り組んでいます。
- 委員長 その 3 カ所の方から、今までどおりがいいとか、あるいは、これをやっていくべきだとか、意見はありますか。
- 事務局 それぞれの課題、今後のメリット等も意見は出ています。主に、メリットとしては、中 1 ギャップの解消に向けての取り組みがまず大きく挙げられているし、課題としては、例えば、小学校と中学校が距離が離れているところは、それをどうカバーできるのかという検討を今年度をかけて、それぞれ意見を出し合うという時期に来ているのではないかと思います。
- 委員 A 進めていく上で、何か今課題になっていることはありますか。
- 事務局 距離が遠い、離れている小学校で連携していく上で、やはり、物理的なやりにくさが考えられます。それと、校区を分ける上で検討しなければならない校区も実際存在していますので、それも課題として考えられます。
5 中学校区の今後の小中一貫に関しての研究経費として、各中学校ブロックごとに 10 万円を予算計上しています。その予算で、先進地の講師を呼んだりして、小中一貫に向けて取り組む研究を始めます。
- 委員 B 今、現実にはやっている、高砂小中学校の課題とか、小中一貫の検証はしているか。保護者、児童生徒に対してのアンケートなどは実施しているか。
- 事務局 アンケート調査は、児童生徒については実施しています。それから、保護者は学校評価のアンケートをいただいております。その中に小中一貫教育についての評価があります。
- 委員 B 結果表はありますか。
- 事務局 主なところは、まとめています。
(アンケート結果表配付)
- 委員長 アンケートの結果について何かありますか。
- 委員 B 自分たちの学校や町に誇りを持っていますかというので、その地域の特殊性が出るから、小中一貫を進める上で、それを考慮しないといけないと思う。
- 事務局 高砂小中学校に関しては、1 小 1 中学校で、誇りを持つということには、そういう土壌はあるのではないかと考えています。その他のブロックも、今後、小中一貫教育を進めていく中で、それぞれ多少の成り立ちの違いはあるとし

でも、中学校という校区の1つの集合体としての誇りを育てていけるのではという期待はしています

○委員長 高砂市の小中一貫というのは、あくまでも義務教育学校でなく、小中一貫で連携するということを重点としているんですね。

極端に言うと、4、3、2、2でいくとか、あるいは、ほかの校区では5、4制でいくとか、そこまで考えていくのか。施設一体型だったら校長が1人で済むわけですね。

○事務局 義務教育学校として型にはめて、捉えていくなれば、1人の校長というふうになるが、義務教育学校ではない小中一貫教育校として取り組む方向も含めて考えて、今、検討しています。

○委員長 平成28年度に法律改正があったような義務教育学校の小中一貫ではなく、あくまで今までの連携を中心とした小中一貫をやるということですね。

○事務局 連携を中心とした、連携の1つ先にある小中一貫教育という形で捉えています。

○委員B 小中一貫のあり方として、市全体でどういう形で小中一貫の学年割をするのか。6年と3年の部分は残しながらでも、本質的には4、3、とか分けていく教育方針のスケジュールを確立しないと、高砂市の特徴ある小中一貫教育というのは出てこない。教育の仕方の問題と習得の議論はいつかしなければならないと思う。例えば5年、6年なり、校長や先生方の指導に基づいて、そこでは試験的に思うがままの教育システムを採用していくような、中学校区が競争し合うような形を小中一貫で取り入れていくのか。そういうことも1回、将来のビジョンを示していかなければと思う。

○委員A 全体構想を見たら、連携ではなく、1歩進んだ教育として一貫教育を捉えていて、義務教育学校までを考えるなら、幼稚園が入ると話が全然変わってしまう。幼稚園が入っているのは、どうなのか。私は賛成ですが、幼小中の11年を見据えた一貫性にある指導の実施。幼稚園をどんなふうこれから取り組んでいくのか。もし幼稚園もということになれば、これからこども園になったときに、福祉と十分緊密な連携をとっていかないと、幼児教育と義務教育の11年間を通した一貫性というのが難しいかなという気はするが、その辺の調整するべき課題がこれから出てくると思うが、どう考えているか。

○事務局 こども園、幼稚園との連携ですが、小中一貫推進会議にこども園、幼稚園の園長先生にも入っていただき、校区で話し合いをする中で、全てが同じようにできるわけではなく、こども園や公立の幼稚園に入っている以外のところも受け入れるので、できる限りの共通理解はしながら、こども園、幼稚園で行われている教育的な内容をお互いに共有して連携していくということも視野に入れて進めていきたいと考えています。

○委員B 私立のこども園も含めての連携を図るということですね。高砂市としての小

中一貫、あるいは、幼稚園も含めた11年教育の中、さらに今度出てくる3歳児教育まで考えてくることになったら、私立、公立がどんな形で連携し合うか、お互いの教育の幅は持ち、ある程度の裁量は認めながら考えていかないと、小中一貫の教育の本質、狙いが出てこないのではないかと。

○事務局 これもいろいろと取り組む中で積み上げていくということが必要だと思うので、最初からそういう構想で出発するというのはちょっと難しいと思います。現実、公立の幼稚園と私立の幼稚園というのは、交流があるのか。まずは、そこを始めて、次の発展形として、例えば高砂の小中一貫になっていたら、そこに加わってもらおうとか、そういうステップを踏んで取り組んでいくことが大事だと思います。

○委員B 高砂市小中一貫の、基本理念は、きちんと共有しておかないと思う。ただ、ただ連携していただくだけではなく、最終的にどんなものをイメージして進めていって、流れに従った中での問題点、課題を解消して、連携を図りながらしていく。公表しなくても、そういう大きなガイドラインを持っておかないと思う。

○委員A 民間も取り込んで、この段階で全部を一気にというのは、理想だが、難しいと思う。まずは公立の保育園、幼稚園、こども園と連携した一貫制で私はいいと思う。遠い将来、考えておかないといけないが、そこまで考えたら、なかなか進まないと思う。公立の幼稚園が、だんだんと認定こども園化していったら、こども園との一貫性ある指導ができるのかというところが課題になると思うので、それをしっかりと見据えて、11年間を考えていかないといけないと思う。

○委員C この小中一貫教育で何を子どもたちに習得させるかを考えたときに、3歳ないし4歳から16歳までの一番成長する大事な時期を俯瞰的に見てもらっていると、みんなに自分の成長を理解してもらっているというのは、幼小中一貫教育の一番いいところだと思う。ずっとわかった上で成長を見ていってあげることが子どもたちにとって一番の宝物になると思う。

逆に、心配なのは、小学校から中学校へ行くときの精神的なハードルが、全くなくなると、今度、高校へ行くときに一気に高いハードルを超えないといけなくなる子もいると思うので、ある程度はハードルを残しながら、それも超えていけるようにすることも必要だと思う。

○事務局 26年の4月1日から高砂小中学校で小中一貫教育を開始し、27年度はほかの5つの校区も、8月、9月に準備会議で構想が固まり、実際に、27年の10月から動き始めていて、28年度は、さらに29年度に向けて小中一貫教育が進められる校区については進める準備の年度と考えています。

小中一貫教育の全体構想の中で、6年と3年の区切りはきちんとつけ、小学校、中学校の学習指導要領に準じて、教育課程を編成していく。あくまでも

公教育ですので、学習指導要領や幼稚園教育要領、認定こども園の教育要領、保育園の保育指針に準じてやっていく。しかし、子どもの育ちと学びに区切りをつけず、子供の発達、学びの段階を就学前を含めて見ていくという考え方で、市内全体のブロックで共通した9年間、また11年間を含めた指導方法、指導理念について準備をし、検討しています。

就学前教育は小学校、中学校につながる学びの基盤として大変大事な時期で、小中一貫教育をスタートする段階から、就学前も含めた形での取り組みを考えていました。県教委も、幼児期の教育について指導方針を出しているので、高砂市も、この就学前には幼稚園、認定こども園を含めた形で見えていきます。福祉との連携は、認定こども園4園は福祉のほうに移管しましたが、市教委の指導主事の計画訪問は、これまでどおりして、教育内容についての指導する予定です。これは、福祉のほうからも申し入れがあったことです。今後も、調整をして、教育、指導について、充実させたいと考えています。

○委員長 この5ブロックの推進計画をつくっているメンバーはどなたですか。

○事務局 高砂市全体の小中一貫教育の推進会議のメンバーで、小中一貫の担当校長と担当教頭を小中それぞれつくっています。それに加えて、就学前を含めた各中学校区ごとに1名ずつ、幼稚園の担当園長もつくっています。それから、6つの中学校ブロックでの代表校長と、各中学校のブロックから代表、推進教諭もおります。

○委員長 地元とか保護者の理解も固めるために、その方たちは入ってないんですか。

○事務局 高砂小中学校では、PTAとか、学校評議員、全保護者にTakasago Planの内容について周知を図ったり、意見を聞きながらやっています。ほかの5つの中学校ブロックは、まだ、教育内容とか、9年間を見通した指導方法、理念、それから、特に各ブロックにおける特色ある活動の内容を固めている段階ですので、その上で、今後、次のステップとして保護者の方に意見を聞いていこうと進めています。

○委員長 完成型だと、わかりにくい方もいるから、できたら、つくっている段階で、ある程度意見が反映できるようなものを何か取り入れたほうが、でき上がって、それを否定されたら非常に困るし、各ブロックごとにいろんなやり方もあると思うので、意見はできるだけ反映していくということは非常に重要だと思う。

○事務局 今年度、小中一貫の各中学校ブロックへの委託ということで予算をつける段階で、中には、今言われている内容を啓発していくための印刷費などの予算として使いたいということで、委託の計画が上がってきているところもあります。その中で、進めながら、保護者の方には広報していくと思うし、こちらから今いただいた意見を受けて、校長会等で指導したいと考えています。高砂小中学校では、26年度、27年度、今年度の取り組みから、毎年変えてい

るので、5つの中学校ブロックも完成形を示すのではなく、実施しながら変えていかなければ対応できないのではないかと考えています。

○委員長 中1ギャップをなくすという大きい目的を、先生方は当然認識していると思うが、今後、各ブロックごとに学校が非常に複数になるので、そして、幼稚園、保育園、私学の関係も出てきて、あちこちへ分散する状態になってしまうので、余程努力していかないと非常に難しいと思う。

○委員B アンケートで、中2、中3の分で、算数、数学の授業の内容についての問いに、26年に比べて、27年のほうが否定的な意見が出てきているし、理科の授業の内容についても否定的なのが、増えている。実際、それは年度によって違うだろうと思うが、ほかの分は肯定的な回答が増えているということがあがるが、こんな意見をどう解釈しているか。

○事務局 それぞれ担当する教員が年によってかわることも原因の1つではあると思うが、それも含めて、わかりやすい授業は、小中一貫の連携を進めていく中で取り組む課題だと考えています。

○委員A 名前は小中一貫だが、推進の方針としては、幼小中の一貫と考えるのか、どうなのか。幼稚園も一緒にということなら、このT a k a s a G o i n g プランの中に幼稚園が一切入っていないのはなぜなのか。

○事務局 当初から、この小中一貫教育の全体構想の中に、就学前は入っています。ただ、T a k a s a G o i n g プランの中に就学前というようなところはないという部分については、そのとおりです。

○委員A 3歳児の教育も軌道に乗ってきたら、この推進方針は、12年間を見据えた形になるということですか。一緒にというのはいいが、どう連携して一貫教育を進めていくのかというのが課題になると思う。

○委員長 小学校は2つに、中学校が3つに分かれるところは、一貫と言いながら、学校、友達も違うなとなってくるので一貫がうまくいくのかどうか。

○事務局 それについては課題だということはわかっています。先進地では、そういう例もありますので、どういうシステムを構築しているのか、研究しようとは思っています。

○委員B もしも、他の5つのブロックも小中一貫になったときは、校区を超えた形は、今後は一切認めなくなるのか、自由な選択肢として残すのか。

○事務局 まだそこまでは話し合いもしてません。

○委員長 小中一貫については今後1年間かけて検討するということですが、市長との協議に当たって教育委員会の意見として集約はしたいと思います。各アンケートの中で、具体的な数値を把握し、十分それを住民の意見、保護者の意見等々が反映できるような会議にする。それから、幼稚園の就学前教育を一貫性の充実をするために、子育て支援室とも十分な協議が必要である。

○委員C 9年間をちゃんと俯瞰して見て、つまづきをできるだけ早く見つけて、それ

に常に対処するというところで、学力向上につなげることが必要だと思う。

○委員長 あくまでも連携を充実して、ギャップをなくす小中一貫を進めるという方向でよろしいですね。

次は、中学校の給食の実施で、話し合いたいと思います。まず、きょうは、数カ所現場を見ましたが、ご意見はありますか。

○委員C 松陽は、自校方式はちょっと難しいかなと思う。理想的なのは、鹿島中学校の、テニスコートの北側を整備すれば、幅はあるように感じた。

○委員A 総合的に考えたら、鹿島かなという気はしたが、はっきり言うと、どこというのは難しい。できれば、学校以外のところがいいかなと思う。

○委員B 私もできるだけ学校の外がいいと思うが、きょう見た感想では、鹿島中学校の北西のところの利用ができれば、いいのかなと思う。それと、あそこに観光バスが入れないかどうかとありましたね。

○事務局 国道2号線からの進入路を整備すると、学校の要望している観光バスの進入も可能となるということです。

給食センターというのは、建築基準法で工場ですので、工業専用地域に建てるべき建物です。竜山中学校は、市街化調整区域で、本来なら、住宅が建てにくいのですが、鹿島中学校の場所は、第1種中高層住居専用区域なので、手続上、住民に対しての説明会をして、合意という手続が必要となります。

○委員長 学校の中で給食センターを建てるのではなく、用地を確保してほしいので、竜山は好ましくない。ただ、先ほど鹿島中がいいという意見があるので、もう少し田んぼのほうでも、買えればと思う。鹿島中に置けば、テニスコートが果たしてとれるかとれないか、まだ不確定なので、もう少し詰めてほしい。

○事務局 視察でご意見のあった空き地は、法面がかなり差があるので、全部整地して、一体的に使える可能性も、すぐにまちづくり部に考えてもらいたいと思います。

○委員長 位置的には、市営住宅跡が一番、市内の中心にあって、配送もしやすいだろうが、ただ、周りに住宅が入っているので、地元の了解があれば、可能かと思う。

手続きが難しければ、調整区域の新しい用地を買ったほうが早いかもしれないが、鹿島がどんな感じかによる。

○事務局 今のところ、鹿島の面積とか法面の違い、また、テニスコートが、2号線沿いの北側につくれるのかどうかも至急検討して、方向性としては、中学校給食は、高砂中学校を除き、給食センター方式という実施方式という方向性でよろしいですか。

○委員長 それでよろしいですね。ご意見ありませんか。

それでは、次の3歳児教育について。これについては、説明よろしいですか。

○事務局 (協議事項1：3歳児教育について説明)

- 委員長 これについては、よろしいですか。
- もし、予定人数以上に応募があった場合はどうするのか。
- 事務局 3歳児の受け入れは、部屋の数とか、保育教諭の数にもよります。まず、今年、ニーズの調査をして、ある程度の人数を把握します。そこでどれぐらい来るのか、考えた上で、部屋数、保育教諭以上の方が来られてもお預かりできないので、調査した上で考えたいと思っています。
- 委員長 多くて、部屋がなかったら、お断りするということですね。
- 事務局 民間のほうも受け入れをしているので、民間と公立園でどう振り分けていくかをもちろん考えなければいけないと思います。
- 委員長 ヨーロッパとか、アメリカ、韓国も、幼児教育の無償化をやるんですね。高砂市は、2分の1補助とか、将来的には、市長政策になっているが、できるだけ、そういう先例をつくってもらいたい。
- 事務局 保育料に関しては、県にも、ひょうご多子世帯制度があります。ほかに、市長のマニフェストにもあったような4歳、5歳の保育料の軽減も今後考えていかなければいけないと思います。徐々に保育料の軽減の方向を示していきたいと考えています。
- 委員長 3歳児教育については、市長との協議は何をするのか。
- 事務局 認定こども園化について、前回の1月の総合教育会議でも、市長から残りの園も早期に実施したいが、教育委員の意見をまとめてほしいという形で、終わったと思います。その後、教育委員会のほうで残り4園の認定こども園化も、おおむね賛同しますという形でした。
- ただ、何点かご意見もあり、荒井幼稚園は、施設の拡張は小学校にも影響するので、当面、現行での体制維持をしたらどうかという協議もあり、その意見も生かさなければならぬと考えています。よって、市長には、教育委員の意見を生かすような協議をしてもらいたいような進め方になると考えています。
- 委員B 28年度からこども園の保育料は上がったのか。
- 事務局 今年から段階的に上がっています。
- 委員B 保育料を上げた分、各園にそれなりの教育的機材等に対する予算の配分をお願いしたいが、何か具体的な形で各こども園へは、配慮はあるのか。
- 事務局 今年、入園されているお子さんに直にはね返るような予算がとれなかったが、こども園に関しては、子育て支援事業を別途行うようになっています。それは5月からスタートする予定で、それに関しての備品、プラスになるようなものは予算化をしています。
- 教材備品ではありませんが、今までなかったAEDを各園のほうに設置したのと、もう1つ、一時預かり制度を今年度より導入しています。
- 委員長 認定こども園化は4園先行してますが、保育料を上げたメリットをどう還元しているのかをもう少し具体的にわかりやすくアピールできる方法を考えて

ください。

- 委員A 3歳児保育について、民間の保育園の反応はどんな感じか。
- 事務局 民間との保育料が違うことも考慮してほしいという声もあり、こちらも、まずニーズ調査をして、民間のほうで受け皿が足りない場合は、公立ですという話もしています。ニーズ調査をしないと、どれぐらいが希望するのかもまだわからない状態です。ただ、ふれあい保育に来られている方などを見ると、そんなに少ない人数ではない。保育をどうしても望む2号の方が入れないということになると、本末転倒になるので、それも含めた上で考えていくべきかと思います。
- 委員長 他にご意見ありませんか。なければ、次にいきます。

議 事 協議事項3 平成28年度の教育課程に関する意見聴取について

- 事務局 (協議事項3について説明)
- 委員A 指導計画は昔、4期に分けていたと思うが、今は5期なのか。こども園だからか。
- 事務局 幼稚園、保育園、認定こども園共通の教育指導要領または保育指導計画、公立の先生方により作成した就学前教育保育の計画に基づいて、各園の園長が計画をつくっています。各園、多少違いも出ていますが、基本、内容については教育・保育共通の計画です。その中で、2歳児なら5期とか、3歳児なら、その中身が異なっています。幼稚園と違うところは、ゼロ歳から3歳までの計画も盛り込んだ計画となっているということです。
- 委員長 この教育目標とか努力目標、園によって非常に詳しく書かれているところと、簡単に箇条書きのところがあってちょっとバランスが悪いかなと思います。書き方とかは統一したほうが見やすいと思います。
- 委員長 今後、教育・保育課程ということで教育委員会の意見は、3歳以上の教育部分の意見を聴取することと整理したい。教育課程の中身については、書き方の統一を来年度は、していただきたいと思います。それから、就学前教育という表現があったりなかったりするの、書き方を厳密にチェックしていただきたい。
- この中身についてはこれでよろしいですか。意見なければ次にいきます。

議 事 協議事項2 平成28年高砂市議会第1回臨時会提出議案に係る意見の聴取について

- 事務局 (協議事項2について説明)
- 委員長 これについてはよろしいですか。
ほかになければ閉会します。

平成28年5月19日 午後6時30分 委員長会議の閉会を宣告
